

# あいちの協同農業普及事業

～農業改良普及課の取組を紹介します～

## 一普及指導活動事例集一



愛知県における協同農業普及事業の概要及び農業改良普及課の普及指導活動について、平成 27年度から 29年度にポスターとして取りまとめた事例を収録しました。

# 目次

1	あいちの協同農業普及事業	1
2	普及指導活動事例	
(1)	意欲ある担い手の確保・育成	
○	次代を担う若手女性農業者の育成 (H29 西三河)	5
○	地域農業を支える多様な担い手の育成 (H29 豊田加茂)	7
○	中山間地における新たな担い手の確保・育成 ～新城市夏秋トマト産地の活性化～ (H29 新城設楽)	9
○	市役所・JAと連携した新規就農者受入支援 (H28 豊田加茂)	11
○	施設園芸産地の再構築への取組 ～アスパラガスで地域資源を再活用～ (H28 東三河)	12
○	新規参入就農希望者への就農支援 (H27 知多)	13
○	夏秋ナスを起点とした地域資源の活用推進 (H27 西三河)	14
(2)	産地の収益力向上に向けた取組の支援	
○	実需とともに麦茶用六条大麦の品種「カシマゴール」導入による 生産量拡大 (H29 尾張)	15
○	栽培技術で立て直せ！イチジク産地の活性化 (H29 知多)	17
○	愛知県育成カンキツ「夕焼け姫」の普及に向けたモデル産地の育 成 (H29 東三河)	19
○	海部東部地域における水田営農団地化の取組支援 (H28 海部)	21
○	組織強化による施設野菜産地の活性化 (H28 田原)	22
○	鮮度保持に対するカラー産地の新たな取組 (H27 海部)	23

- ヒートポンプ導入による老舗スプレーギク産地の基盤強化……………24  
(H27 東三河)
- 事前情報発信を目指したカーネーションの出荷量予測方法の検討 25  
(H27 田原)
- (3) 環境と安全に配慮した農業の推進
  - 若手生産者を中心とした組織活動によるナス産地の活性化……………26  
～GAP手法の取組を通して～  
(H27 尾張)
- (4) 活力ある地域づくりに向けた取組の支援
  - クルクマ生産体系の確立による産地育成……………27  
～切り花農家と鉢花農家の連携～  
(H29 海部)
  - 耕畜連携による地域資源の活用……………29  
(H29 田原)
  - 瀬戸市における直売所出荷組織の活性化による地域農業の発展……………31  
(H28 尾張)
  - 海部東部地域における水田営農団地化の取組支援……………21  
(H28 海部)
  - ネットワーク支援による知多の直売所の活性化……………32  
～知多農産物直売所研究連絡会の支援～  
(H28 知多)
  - 市を越えた広域での飼料生産・流通の橋渡し……………33  
(H28 西三河)
  - 組織的・省力的 自給飼料生産システムの構築……………34  
(H28 新城設楽)
  - 施設園芸産地の再構築への取組……………12  
～アスパラガスで地域資源を再活用～  
(H28 東三河)
  - 関係機関・団体等と連携した獣害防止対策への取組……………35  
～獣害に負けない集落を目指そう～  
(H27 豊田加茂)
  - 酒米「夢山水」を核とした設楽地域稲作の活性化……………36  
(H27 新城設楽)

# 1 あいちの協同農業普及事業

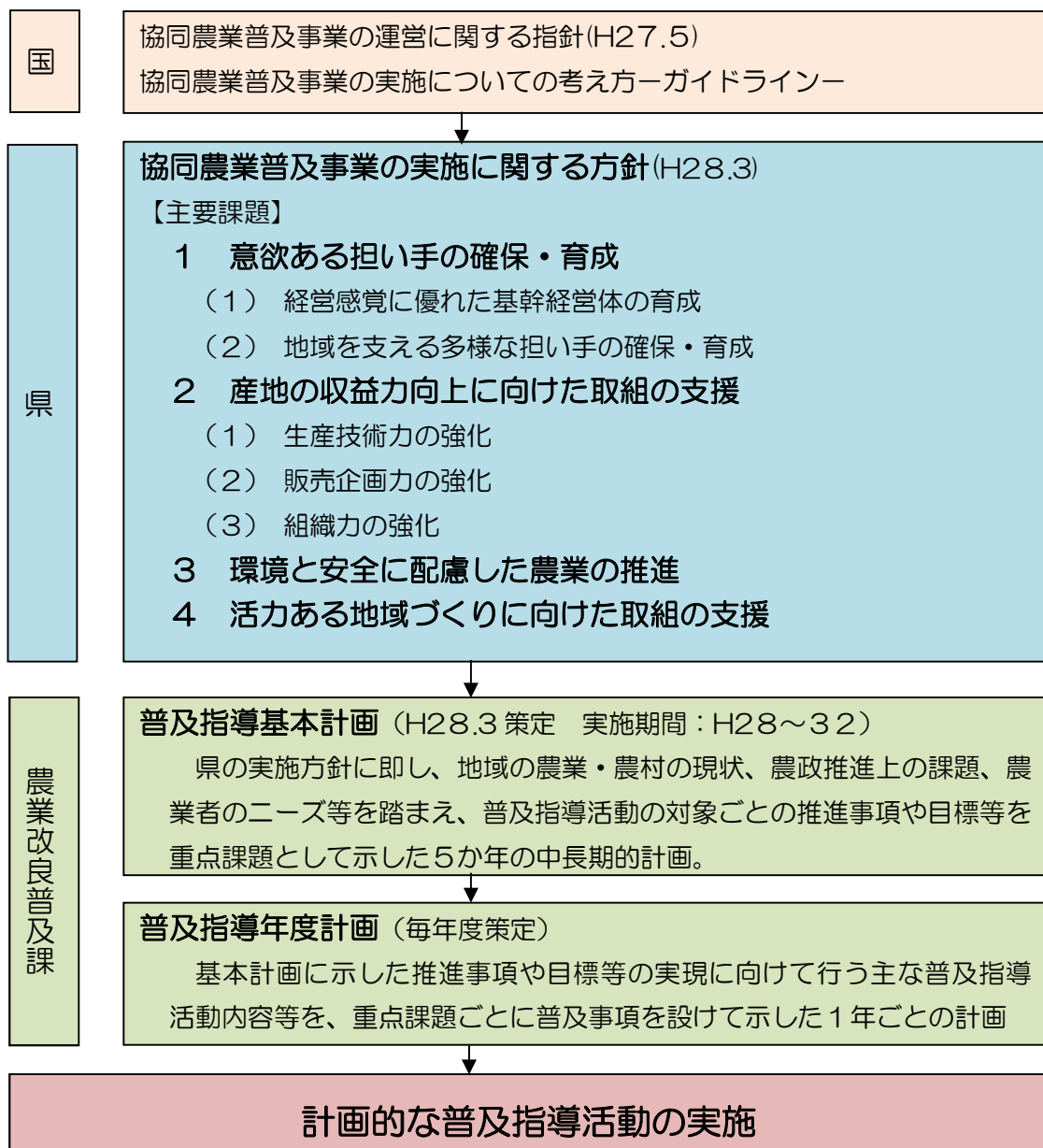
## (1) 協同農業普及事業とは

国と県が協力しながら（協同）、農業者の技術・経営改善や、地域農業の振興を図るために、県の専門の職員が行う様々な普及指導活動を支える事業です。

愛知県では農林水産事務所農業改良普及課の普及指導員がその業務を行っています。

## (2) 普及指導活動の実施

協同農業普及事業は、国の法律・指針、県の実施方針等に基づき計画的に実施します。



(3) 普及指導員とは

農業者の皆さんに直接接して、農業技術の指導を行ったり、経営の相談に応じたり、農業に関する情報を提供したりすることを専門としている 県の職員です。

普及指導員になるには国が行う資格試験に合格しなければなりません。

(4) 農業改良普及課の業務

県内に8課4駐在室が設置され、農業者のために日々普及指導活動を行う普及指導員の活動拠点です。

愛知県では、農業改良普及課に約200人の普及指導員等を配置して農業者の皆さんをサポートしています。

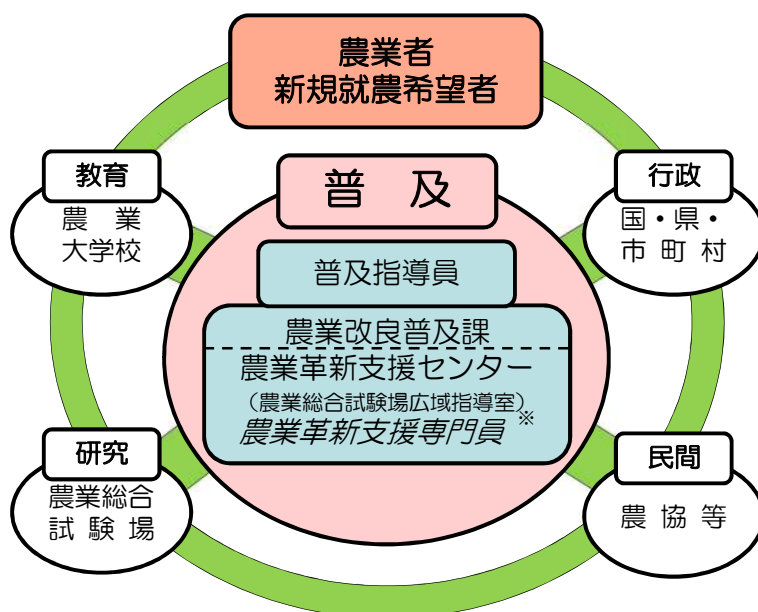
《農業改良普及課の仕事》

農業者の経営改善や産地づくりをサポートしています。  
具体的には、以下の項目に取り組んでいます。

- ☆ 農業に関する技術・知識の普及
- ☆ 新技術の現地での実用化
- ☆ 農業経営・農村生活に関する相談・診断・情報提供
- ☆ 農業者組織の育成
- ☆ 新規に就農を希望する方への情報提供・相談
- ☆ 担い手育成や技術・経営上の課題を解決するための調査

(5) 普及指導体制

普及指導活動は、試験研究、教育、行政、民間と連携を図りながら農業者への指導、相談を行います。

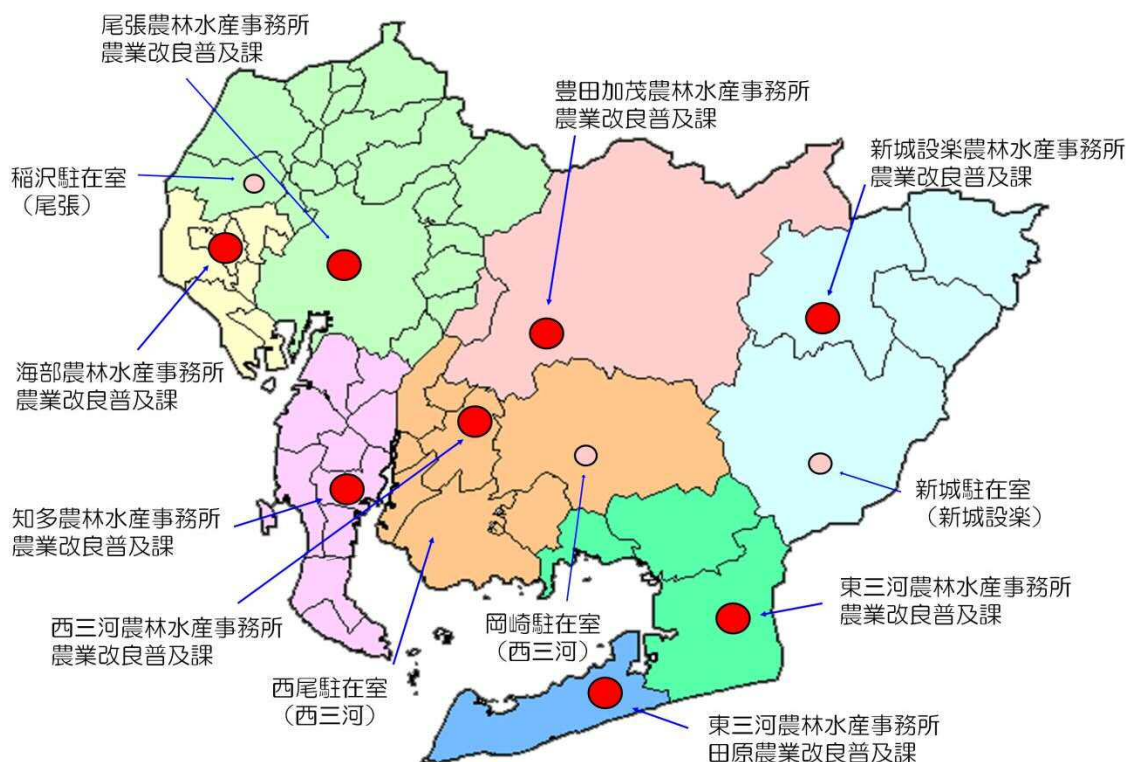


**農業革新支援専門員と  
農業革新支援センター**

農業革新支援専門員とは、農業総合試験場企画普及部広域指導室に配置されている普及指導員を指し、広域指導室を「農業革新支援センター」に位置づけています。

農業革新支援専門員は、県域で取り組む課題の調整や調査研究、試験研究等との連携、普及指導員の資質向上のための研修、先進的な農業者からの相談対応等を行っています。

## (6) 農業改良普及課の配置



農林水産事務所 農業改良普及課	所在地	電話番号	管轄市町村
尾 張	〒460-0001 名古屋市中区三の丸二丁目 6-1	(052) 961-7211	名古屋市、一宮市、瀬戸市、春日井市、犬山市、江南市、小牧市、稲沢市、尾張旭市、岩倉市、豊明市、日進市、清須市、北名古屋市、長久手市、東郷町、豊山町、大口町、扶桑町
(稲沢駐在室)	〒492-8216 稲沢市大塚町塚畑 2200-11	(0587) 21-2511	(一宮市、犬山市、江南市、稲沢市、岩倉市、大口町、扶桑町)
海 部	〒496-8532 津島市西柳原町 1-14	(0567) 55-7611	津島市、愛西市、弥富市、あま市、大治町、蟹江町、飛島村
知 多	〒475-0903 半田市出口町 1-36	(0569) 21-8111	半田市、常滑市、東海市、大府市、知多市、阿久比町、東浦町、南知多町、美浜町、武豊町
西三河	〒446-0066 安城市池浦町境目 1	(0566) 76-2400	岡崎市、碧南市、刈谷市、安城市、西尾市、知立市、高浜市、幸田町
(岡崎駐在室)	〒444-0802 岡崎市美合町字並松 1-2	(0564) 53-1552	(岡崎市、幸田町)
(西尾駐在室)	〒445-0073 西尾市寄住町下田 12	(0563) 57-4154	(西尾市)
豊田加茂	〒471-8566 豊田市元城町 4-45	(0565) 32-7361	豊田市、みよし市
新城設楽	〒441-2301 北設楽郡設楽町田口字小貝津 6-2	(0536) 62-0546	新城市、設楽町、東栄町、豊根村
(新城駐在室)	〒441-1365 新城市字石名号 20-1	(0536) 23-2111	(新城市)
東三河	〒440-0833 豊橋市飯村町高山 11-40	(0532) 63-3529	豊橋市、豊川市、蒲郡市
田 原 ※	〒441-3427 田原市加治町南恩中 7-5	(0531) 22-0381	田原市

※田原農業支援センター〔愛称：田原アグリベース〕

## 2 普及指導活動事例



# 2017年 愛知県 協同農業普及事業の活動成果

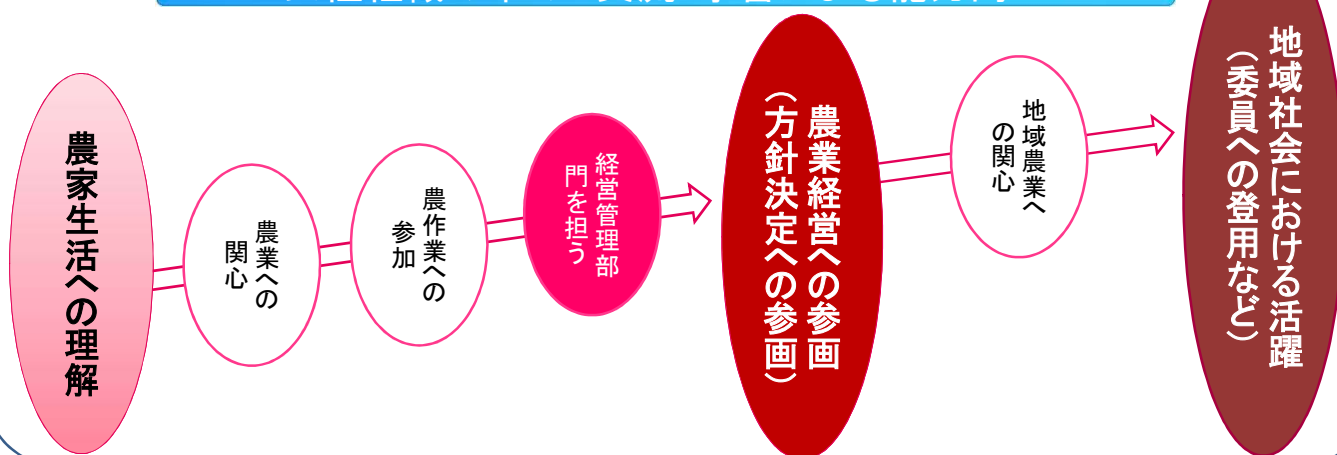
## 《若手女性農業者を育成する取り組み》 次代を担う若手女性農業者の育成

西三河農林水産事務所農業改良普及課

### 1. 背景

西三河は女性の地域活動が活発

組織活動を通して経営参画、社会参画に取り組んできた  
女性組織の中の 交流・学習による能力向上



若手女性の課題

1 組織活動参加意欲が低下  
2 農業に対する関心が低下

若手女性の学習・交流の場作りと経営参画への誘導が必要

### 2. 目標と成果

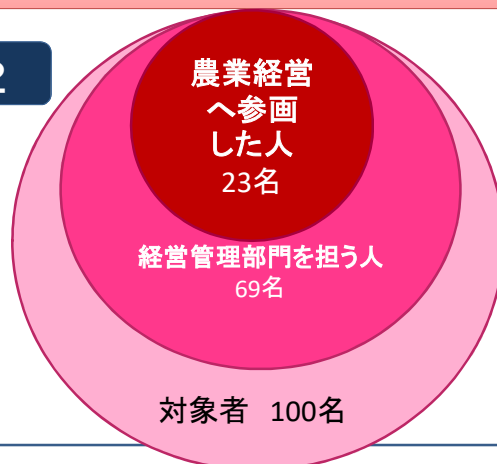
対象 若手女性農業者  
100名

目標 1 経営管理部門を担う人の育成 30名  
2 農業経営へ参画した人の育成 15名

成果 1



成果 2





### 3. 活動の内容

若手女性の関心と意欲にあわせた研修の実施

それぞれの農業経営参画状況に合わせて支援を行うため、経営概要や参画状況をまとめた個別カルテの作成

#### 集団指導「初級研修」 参画意欲の向上支援

地域農業の理解促進と交流の推進、グループ化への誘導



・農業の良さを理解した  
・仲間で誘い合うことで参加意識が向上！  
・仲間をまとめるリーダーが生まれた

#### 集団指導「中級研修」 経営管理能力の向上支援

経営管理  
5部門の研修



関心に合わせて部門別研修への参加を誘導！

より専門的な生産技術の習得

作目別研修



#### 個別指導 経営方針の話し合い支援

我が家の経営目標作成支援

家族との話し合いの場作り

家族経営協定の締結支援



将来目標が明確になり、定期的に話し合うようになった

活動のポイント

- ◆個別カルテの作成による把握と個別指導
- ◆経営参画段階（ステップ1～3）に合わせた支援
- ◆目標設定や話し合いなど自ら取り組むよう誘導

### 4. 残された課題と今後の活動

- ◆ 経営参画や講座参加に対する経営主の理解不足  
⇒ 経営主への啓発を行う
- ◆ 地域社会における活躍（社会参画）が不十分  
⇒ 活躍の場づくりと関係機関との連携強化

## 《若手女性農業者の経営参画促進》 地域農業を支える多様な担い手の育成

豊田加茂農林水産事務所農業改良普及課

### 1. 背景

対象：40歳未満の女性農業者 39名

#### (1) 農業経営の発展には、女性の経営参画が重要。

- ・農業人口の約半数を女性が占め、その活躍が期待されている。
- ・(株)日本政策金融公庫の調査では、女性が経営に関与している経営体は経常利益の増加率が2倍以上と高く、収益性に貢献している。

#### (2) 多様な経緯で就農した女性の能力向上がポイント。

- ・管内は、平坦部から山間部まで広範で、点在、孤立化しやすい。
- ・結婚により就農した女性は、農業経験がなく、地域ネットワークが弱い。

また家事・育児があり、農業経営への参画は限定的。

### 2. 目標と成果

#### 目標

(1)若手女性農業者組織の設立と組織育成

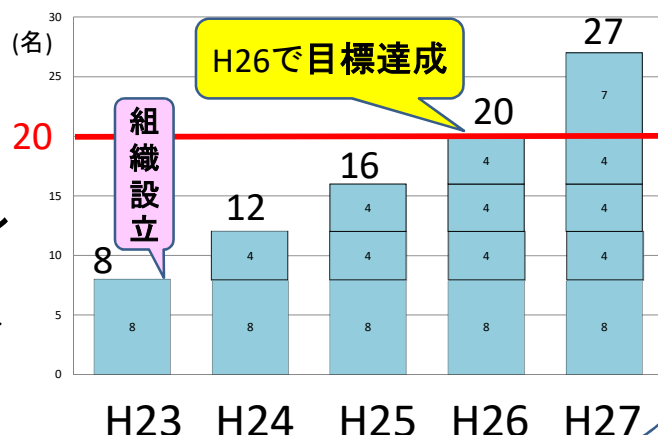
(2)経営管理能力のレベルアップ 20名

#### 成果

(1) 女性農業者組織

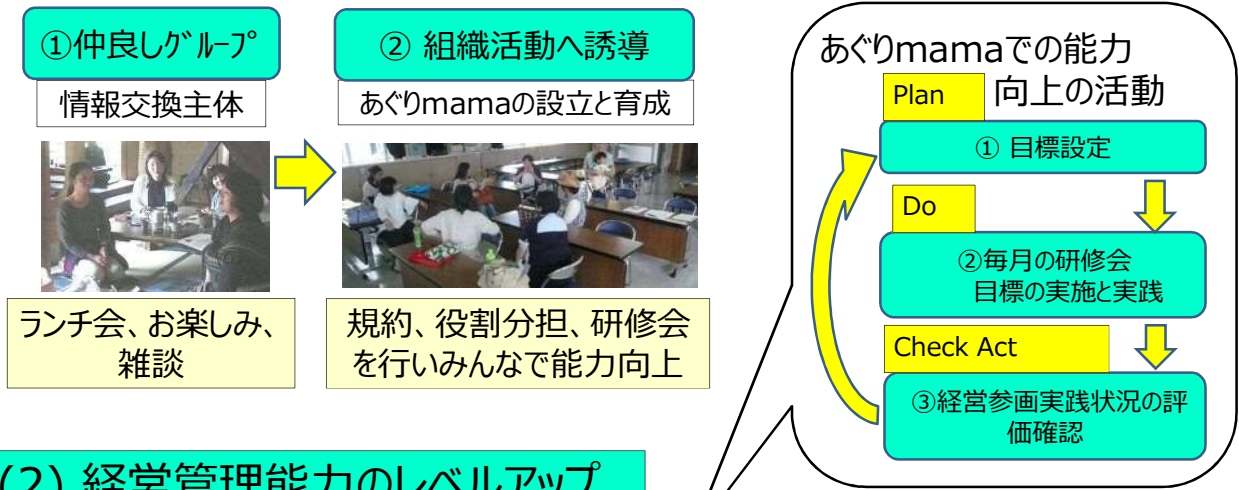
「あぐりmama」を設立し  
育成できた

(2) 27名の経営管理能力が  
レベルアップできた

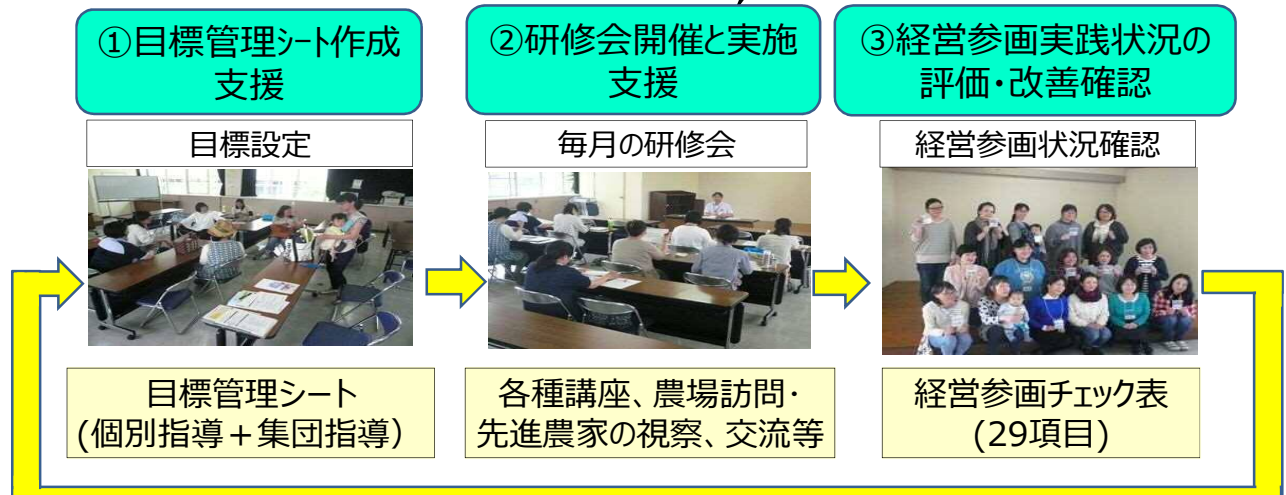


### 3. 活動の内容

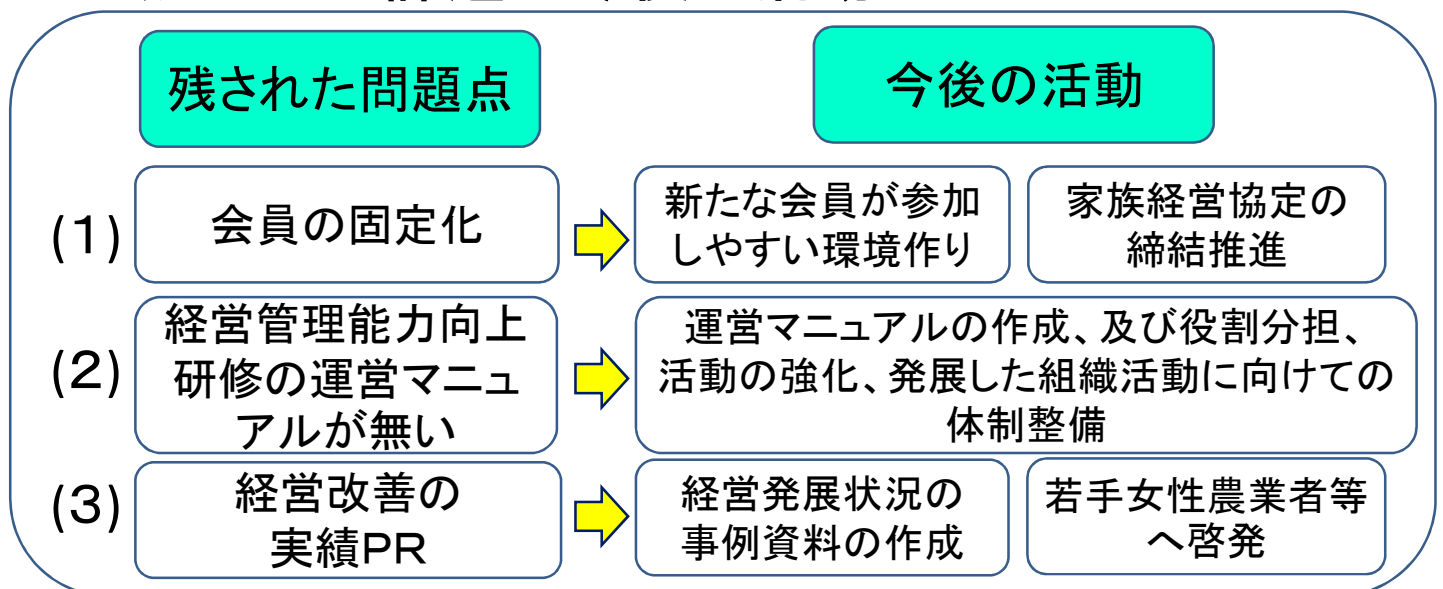
#### (1) 若手女性農業者組織の設立と組織育成



#### (2) 経営管理能力のレベルアップ



### 4. 残された課題と今後の活動



《高齢化・後継者不足の解消に向けて》

中山間地における新たな担い手の確保・育成  
～新城市夏秋トマト産地の活性化～

新城設楽農林水産事務所農業改良普及課



1. 背景

**対象** JA愛知東トマト部会 作手支部

- ・新城市作手地区の夏秋トマト生産組織
- ・農家18戸、約60%が60歳以上 (H22)
- ・高齢化と後継者不足による産地衰退懸念

求む  
新たな  
生産者!

2. 目標と成果

**目標** 担い手の確保・育成による産地の活性化

- ①新規就農希望者確保
- ②計画的な就農と早期経営安定

**成果** 若い生産者の確保と生産力向上

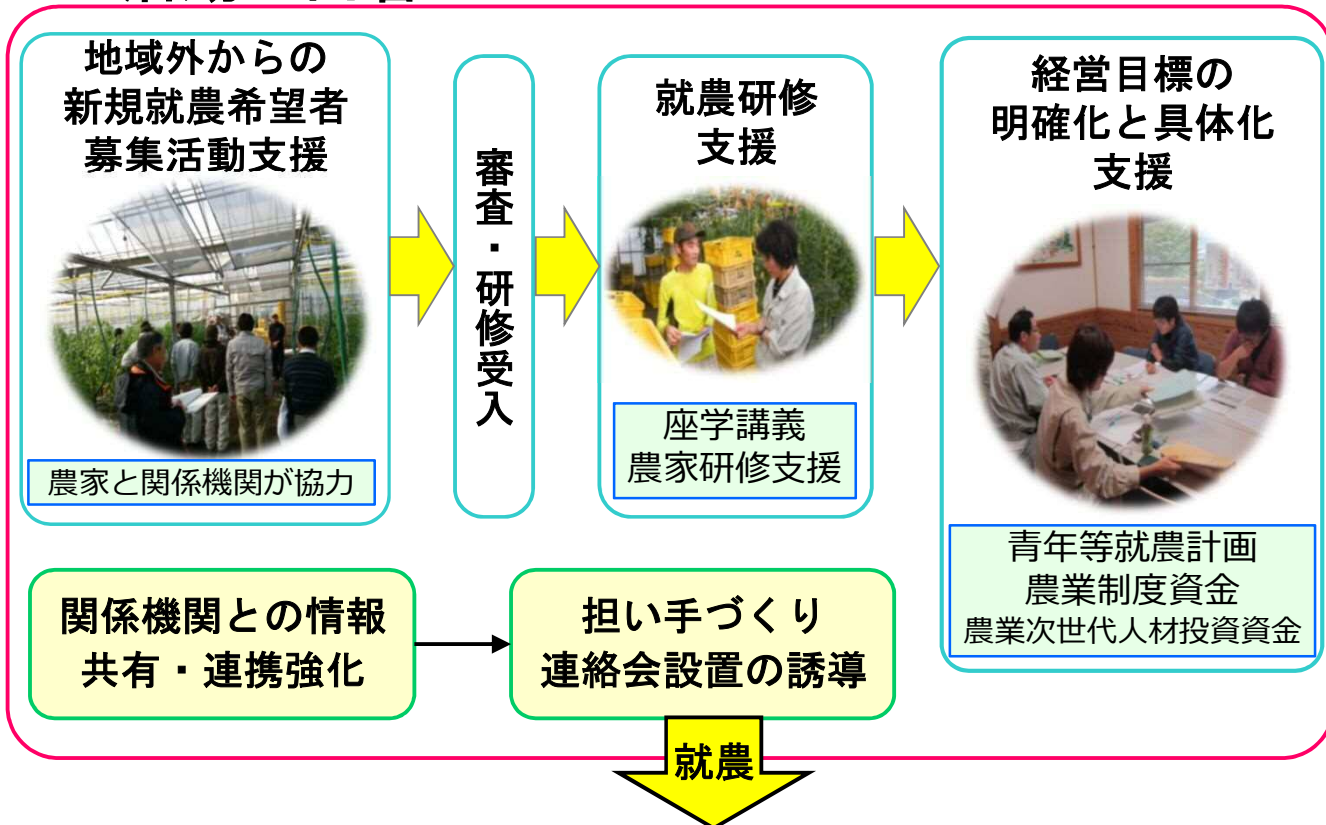
- ①45歳以下の若手8名が新規就農・営農開始
- ②作手支部の生産力が大幅に向上

トマト生産実績	H22	H28		H28/22 対比
			うち新規 就農者 (H26~28)	
生産者数 (戸)	18	19	8	106%
栽培面積 (ha)	3.4	4	1.6	118%
出荷数量 (t)	306	494	238	161%
単収 (t/10a)	9	12	15	136%

生産者の  
増加  
&生産力up!



### 3. 活動の内容



### 4. 残された課題と今後の活動

課題は概ね達成できた。さらなる活性化には以下の課題解決が必要

#### 【課題】

雇用労力不足解消  
新規就農者の経営安定化

組織力の強化  
部会の求心力向上

後継者や地元出身者の  
就農促進

#### 【今後の活動】

- ・省力化技術導入
- ・組織的な雇用確保推進
- ・地域との連携支援

- ・リーダー農家の育成
- ・組織活動による連携強化

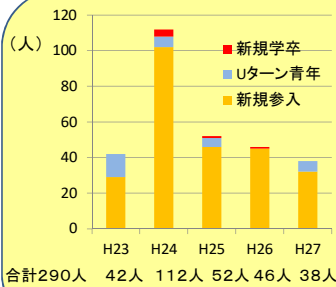
- ・成功事例のモデル化
- ・地元就農の魅力PR

# 《新規就農者を確保する取組》

## 市役所・JAと連携した新規就農者受入支援

豊田加茂農林水産事務所農業改良普及課

### 1. 背景



農業者の高齢化

⇒将来の担い手を増やす必要がある

農家の後継者(新規学卒・Uターン青年)以外の  
新規参入就農希望者の増加

農業経験の少ない定年就農希望者の増加

新規参入者の課題

農業経験はない、農地を持たない、資金がない

就農相談者数の推移

### 2. 目標

新規就農者を5年間で  
90名確保する

⇒ 計画的に  
就農定着できるよう  
市役所・JAとの  
連携強化

### 3. 活動の内容

市役所・JAと連携した

#### 1 新規就農者受入体制の構築

##### ◆「新規就農者受入システム連携会議」

年4回(5月・7月・11月・2月)開催

- ・相談会の開催計画、内容の検討
- ・地域推進作目、所得と経営規模の検討
- ・相談者の就農準備状況などの情報を共有

#### 2 新規就農者の計画的な就農支援

##### ◆「新規就農相談会」と「視察」

年3回(6月・10月・1月)土曜日開催

- ・就農支援に関する概要説明
- ・研修紹介
- ・先輩就農者の事例発表
- ・視察・農家研修(技術・経営能力の習得)

##### ◆ 個別就農支援

- ・就農前相談～生産方式の検討などの相談
- ・就農計画作成支援・農地の確保支援
- ・制度資金の活用支援

#### 3 新規就農者への就農後の支援

JA生産部会加入者へ技術経営指導の実施

若い就農者には4Hクラブ活動(課題解決学習)にて指導

農起業支援センターが中心となって連携体制を構築

構成：愛知県豊田加茂農林水産事務所農業改良普及課・農政課  
豊田市農政課・みよし市産業課・JAあいち豊田営農指導課・豊田市農ライフ創生センター  
みよし市緑と花のセンター



～新規就農相談会～



個別に相談～就農前支援～  
雨よけイチジク栽培農家へ研修  
就農計画作成支援



イチゴの巡回指導会



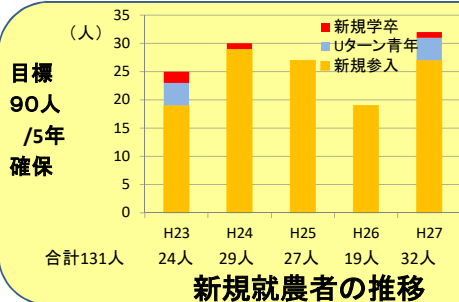
ナスの研修会



農業経営基礎研修会

～JA生産部会 加入者への技術指導～ ～技術経営研修会～

### 4. 成果



就農相談対応

290人

平成23年～27年(5年間)の新規就農者

131人

内 訳：農業法人への就職52人(40%) 独立自営就農79人(60%)

作目別：水田作39人(30%)、野菜57人(43%)、果樹23人(18%)、

その他(花き・畜産・茶等)12人(9%)

### 5. 今後の課題

#### 就農者の把握

- 新規就農相談会を起点に就農希望者の動向把握
- 農家研修体制、農地紹介等の計画的な就農支援体制の強化
- WEB利用による新規就農希望者の募集

#### 就農後のフォローアップの継続

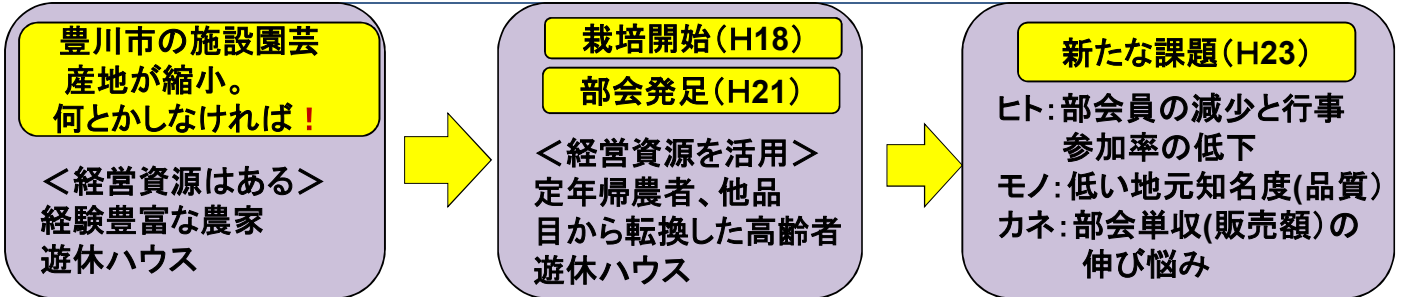
- 技術・経営指導
- 就農3年までの新規就農者への研修会等
- 独立自営就農者への早期経営安定に向けた個別指導

《アスパラガス産地をつくる取組》  
 施設園芸産地の再構築への取組  
 ～アスパラガスで地域資源を再活用～



東三河農林水産事務所農業改良普及課

1. 背景



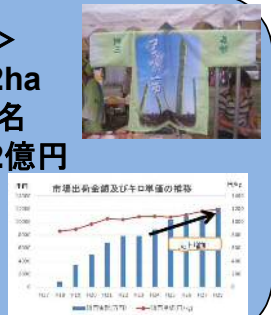
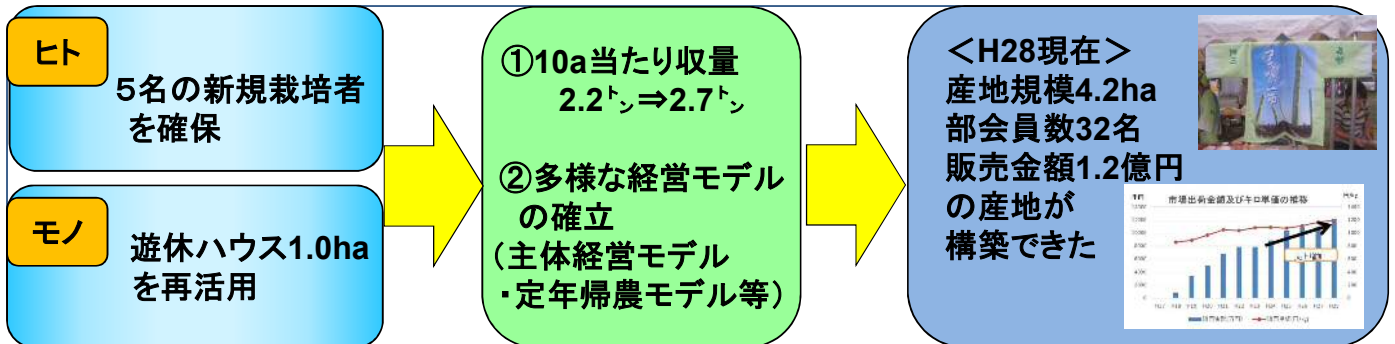
2. 目標

経営資源（ヒト・モノ）を生かしながら、アスパラガス部会の産地を強化し、縮小しつつある施設園芸産地の再構築を図る。

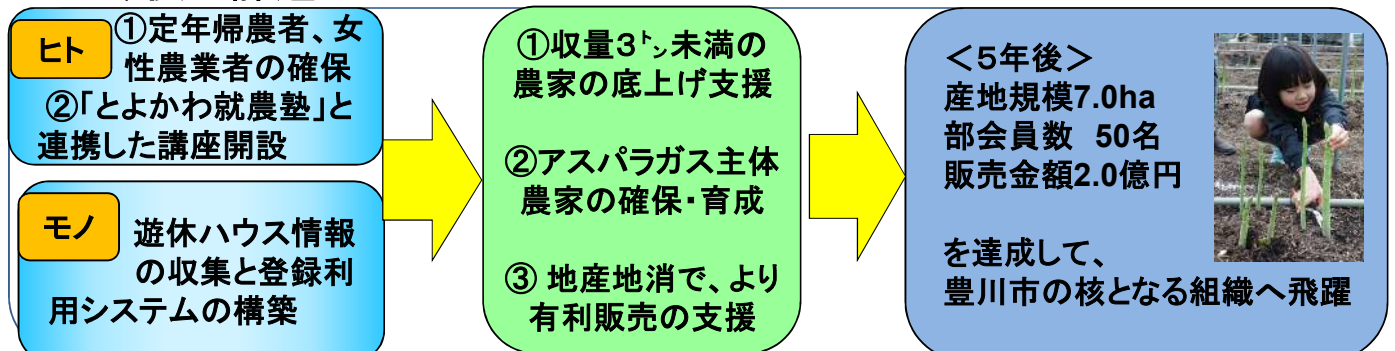
3. 活動の内容



4. 成果



5. 今後の課題



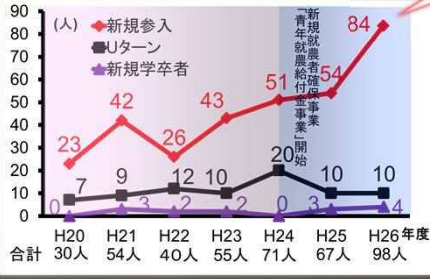


# 新規参入就農希望者への就農支援

知多農林水産事務所農業改良普及課

## 課題の背景・目標

### 就農相談者数の推移



親元就農の減少  
新規参入就農希望者の増加

- ・新規参入就農希望者のニーズに応じた個別支援
- ・研修受入農家・市町・JA・普及課等関係者での情報共有

新規参入就農希望者の就農

45歳未満の  
新規参入就農者の  
確保と自立にむけた  
就農支援

新規参入希望者の就農後は？  
自己破産候補者？

## 新規参入就農希望者への支援活動

「技術がない」  
「農地がない」  
「資金がない」

就農後では手遅れなことが多い！  
就農前の準備が大切！

市町・JAと連携して就農サポート

就農相談



「技術がない」  
↓  
技術習得のため  
しっかり指導できる  
農家での研修へ誘導

- ・相談者ニーズの把握
- ・起業するリスクの説明
- ・就農意欲の高い希望者の抽出



就農への支援



「農地がない」  
↓  
農地の確保  
条件の確認

「資金の不足」  
↓  
資金の確保、就農支援策及び就農までのスケジュールの検討



## 活動成果

- ※ 就農希望者のニーズを的確に把握
- ※ 関係機関の連携した支援を実施
- ※ 問題点を理解させた
- ※ 自主的に取り組み行動を起こさせた



平成23年～27年の5年間で  
新規就農者の確保目標65名に対し  
126名を確保  
その内45歳未満の新規参入就農者は52名

自立まで導けた45歳未満の  
新規参入就農者  
46名

# 夏秋ナスを起点とした地域資源の活用推進

西三河農林水産事務所農業改良普及課

## 額田地域の地域資源



【夏秋ナス】

産地であり、人・お金を呼び込む「活力」の源「地域資源」の象徴の一つ

「夏秋ナス」を支えるものも「地域資源」

共同機械

農地

施設



ハード

ソフト

部会

技術力  
販売力

市役所

行政サービス  
就農給付金

J A

部会活動支援  
土地利用調整

普及課

農大  
技術支援

## 背景

地域資源

活用事例が、地域外の人にわかりにくい

次第に高齢化など

価値低下の恐れ

## 目標

I 関係機関の連携強化

II 新規就農者による優良活用事例づくり

多様な利用者を地域資源へ誘導

きっちり活用

## 普及活動の手順

### I 「市役所・JA」への連携提案

- ・「新規就農者支援対策チーム」で活動
- ・夏秋ナスを基幹品目
- ・JA営農センターが集落との調整役
- ・普及課が技術支援

### II-1 就農希望者の就農支援

- ・就農者情報等の共有
- ・就農計画作成支援
- ・農地の利用調整・団地化
- ・農地の利用権設定

合意形成

### II-2 新規就農者の取組支援

- ・部会員での巡回提案・実施
- ・「新規就農者支援対策チーム」での巡回
- ・就農者間での相互研鑽支援

個別支援

- ・施設増設分での資金利用支援(夏秋ナス+イチゴ直売経営開始)

地域外の者の新規就農

関係機関との意見・情報交換の実施

新規就農者への傾聴・巡回指導

14t以上出荷達成意欲向上

出荷量14t  
部会単価  
249円/kg  
売上げ  
3,486千円  
相当

施設活用  
秋冬作導入

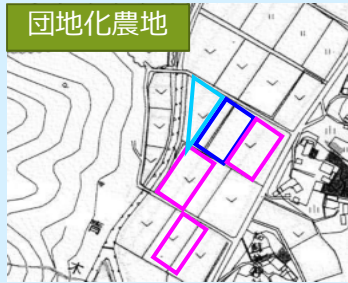
## 成果

活用しやすくなった地域資源

情報共有する体制  
新規就農者支援対策チーム



団地化農地



部会によるほ場巡回の復活



地域資源(離農者のイチゴ施設)の活用



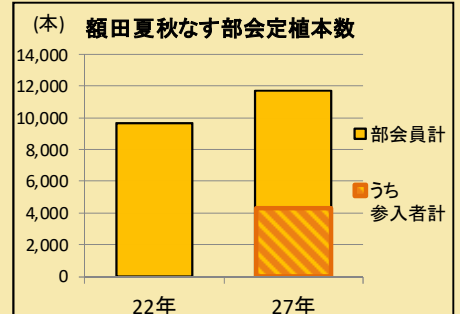
【夏秋ナス】  
起点に、地域資源の活用が進み、「活力」が増進した

新たな人材(3名)の流入  
(平成28年就農希望者)

部会の規模(定植本数)拡大  
活動活発化

夏秋ナスの活用拡大  
(新規就農者の経営規模拡大)

未利用資源(施設)を活用した  
秋冬品目の導入



## 《麦茶用麦の増産》

### 実需とともに麦茶用六条大麦の品種 「カシマゴール」導入による生産量拡大

尾張農林水産事務所農業改良普及課

## 1. 背景

対象：大麦生産者 5戸

- ・大口町・扶桑町は県内最大の麦茶用六条大麦の産地である。
- ・生産された大麦は地元実需者へ全量供給されている。
- ・大麦の作付面積は約75haである。
- ・主力品種「カシマムギ」の課題は成熟期に稈が折れる「中折れ」による収量低迷であった。
- ・これにより実需者の求める生産量を供給できていない。
- ・このため「カシマムギ」に替わり「カシマゴール」導入による生産量拡大が課題となっていた。

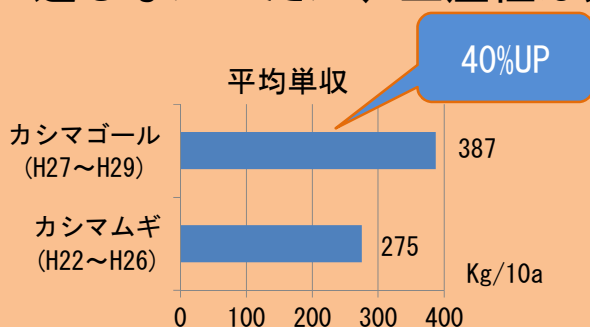


成熟期の稈の折れ「中折れ」の違い  
左「カシマゴール」 右「カシマムギ」

## 2. 目標と成果

	現状 (H22～H26)	目標 (H27～H29)	成果 (H27～H29)	新品種 導入前比
平均単収	275kg/10a	400kg/10a	387kg/10a	約40%増
生産量	230t	300t	288t	約25%増

「カシマゴール」の本格導入により、  
目標に達しなかったが、生産性は大幅アップ



地元産の大麦を使用した商品



### 3. 活動の内容

#### 新品種導入検討会 (H23)

新品種を  
導入しよう！



- ・関係者間で「カシマゴール」導入を検討
- ・現地適応性展示ほの設置が合意される

#### 展示ほ設置 (H24～H26)

カシマゴールの  
展示



- ・「カシマムギ」との比較試験を実施
- ・「カシマゴール」の収量・品質が優れることを確認

#### 実需者を交えた 現地検討会 (H24～)

沢山とれそう  
だね！



- ・生育状況を実需者とともに確認
- ・「中折れ」が少ないことを確認

#### 実需者を交えた 評価・計画策定 (H24～)

品質も良さ  
そうだ！



- ・実需者の評価は良好
- ・実需者の要望に対応する栽培法の検討

#### 県外先進地視察 (H27)

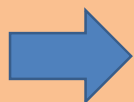
なるほど、肥料のやり  
方に注意しよう！



- ・関係者が茨城県の生産現場を視察
- ・施肥法の注意点を確認

### 4. 残された課題と今後の活動

①「カシマゴール」の増収に向けた施肥法が確立されていない



収量向上に向けた施肥法の確立

②収量に影響を及ぼす難防除雑草の増加  
(ネズミムギ、カラスムギ)



除草剤の体系処理による  
防除対策



多発する難防除雑草  
(ネズミムギ、カラスムギ)

## 《イチジク栽培技術の向上による産地の活性化》 栽培技術で立て直せ！イチジク産地の活性化

知多農林水産事務所農業改良普及課

### 1. 背景

対象

知多いちじく部会 83戸 24ha

- ・ 防除が難しい病害虫（アザミウマ、株枯病）が発生

➡ 効率的な対策の実施が課題

- ・ 高齢化が進み、産地が縮小

➡ 新規栽培者の確保と、定着に向けた技術向上が課題

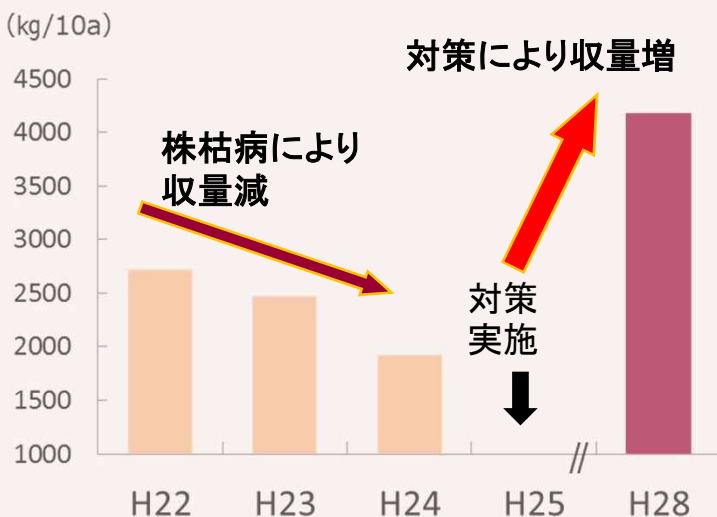


### 2. 目標と成果

#### (1) 効率的な病害虫対策

アザミウマの防除時期を明確化

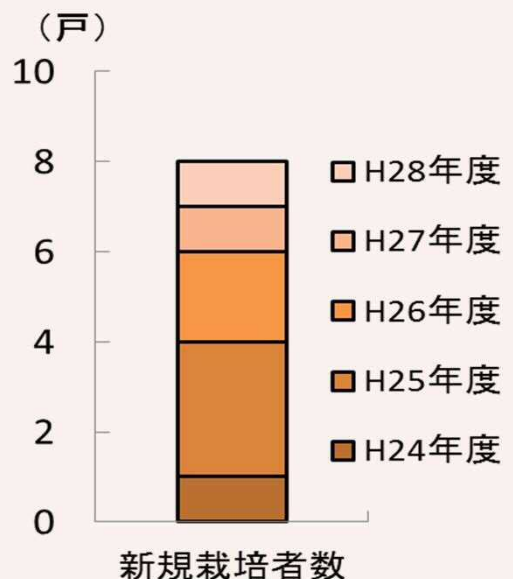
株枯病対策により収穫量が増加



株枯病対策によるイチジク収穫量の変化

#### (2) 新規栽培者の確保育成

8名の新規栽培者が定着

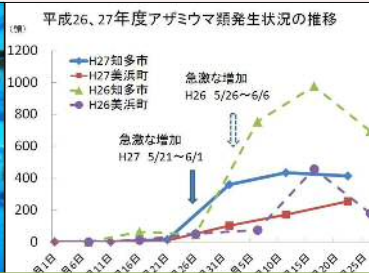
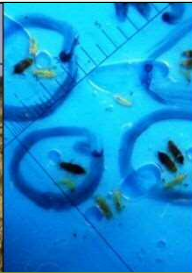




### 3. 活動の内容

#### 病害虫対策の技術実証

アザミウマ対策



発生時期調査

発生ピークの把握

株枯病対策



土壌還元消毒の実施

実施ほ場の生育調査

#### 新規栽培希望者への相談会



イチジク栽培・経営の説明

#### 実証技術の周知・指導



生産者への対策技術説明

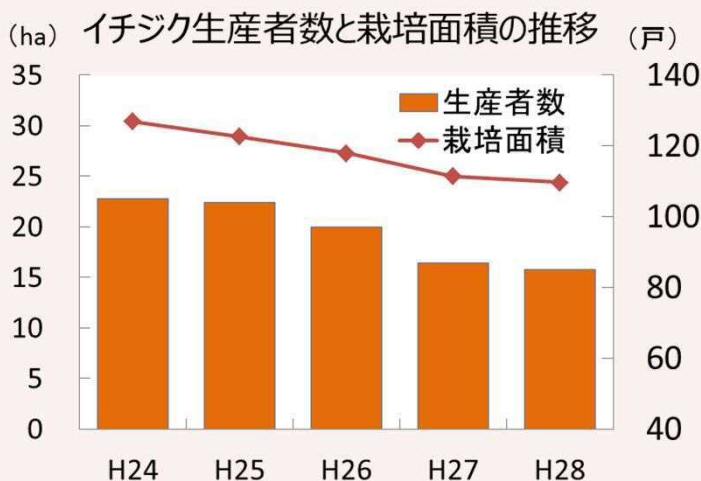


新規栽培者対象の研修会

#### 栽培技術の向上

### 4. 残された課題と今後の活動

- 新規栽培者の確保が追いつかない
- 生産者の栽培技術に差がある



- ・ 栽培指導者の明確化
- ・ 新規栽培者の巡回研究会の新設 など

新規栽培者を受け入れられる部会体制の整備

## 《県が育成した果樹の新品種の普及》

# 愛知県育成カンキツ「夕焼け姫」の普及に向けたモデル産地の育成

東三河農林水産事務所農業改良普及課

## 1. 背景

温州ミカンの消費量が減少 → 温州ミカンの価格不安定・低迷

県内生産者の声… 愛知県オリジナルのカンキツ品種が欲しい

本県初のカンキツ育成品種  
「夕焼け姫」(H25年品種登録)

- ・果皮の色が濃い
- ・種がなく皮がむきやすい
- ・宮川早生より収穫が2週間早い(11月中旬～)

宮川早生



夕焼け姫

ところが、果樹の新品種を普及する場合…

市場へ出回るまでに長い年月がかかる → 話題が風化・関心が薄れる

## 2. 目標と成果

目標 迅速に「夕焼け姫」導入のモデル産地を育成する → 県内へ波及

対象: JAひまわりみかん部会 19名 3ha

- ・育成中より強い関心を示していた産地
- ・小さい産地であるため 生き残りのための特産品を模索中  
迅速な新品種導入と普及がしやすい

### ここまでの成果

#### (1) 産地内に、「夕焼け姫」の成木ができた

- ・H27年(品種登録後2年、苗木販売開始前)には…  
現地で実物を見られる・試食できる・栽培試験ができる状態に

#### (2) 苗木の供給体制が整備でき、導入が進む

- ・JAひまわり → 236本導入、高接ぎによる品種更新も進む。

#### (3) 高品質・安定生産技術の確立が進む



### 3. 活動の内容



### 4. 残された課題と今後の活動

**(1) 産地規模が小さい**

・販売ロットの確保、販路拡大に備えた、さらなる導入推進

**(2) 結実開始したばかりで、販売は数年先**

・本格的販売に備えた、販売戦略・ブランド化方策の検討

**(3) まだ「夕焼け姫」の知名度が低い**

・県内で2,250本（うち東三河普及課管内1,837本） → 県内への普及推進

# 《田んぼを担い手農家にまとめ、効率的な農作業をめざす》 海部東部地域における水田営農団地化の取組支援

海部農林水産事務所農業改良普及課

## 1. 背景

- 当管内は、平成22年当時、水稲4,869ha、小麦481ha、大豆464haが作付されていた。この多くは農協の営農受託組織に所属する水田作担い手農家が受託していた。
- 高齢化と米価下落のため、農作業受委託から利用権設定や特定農作業受委託へ急速に転換していた。
- 主食用米の生産過剰の状況の中、水田作担い手農家は米生産調整への対応が迫られている。
- 小麦、大豆、新規需要米等の戦略作物の生産振興が求められ、海拔0メートルの低湿地という不利な立地条件の中で小麦・大豆生産に成果を上げているが、より一層の生産安定と品質向上が求められている。
- 当地域は、ほ場境界に畦畔がない水田が多く、面的な農地の利用調整がなければ、小麦・大豆や水稲多収性品種等の戦略作物、高能率・低コストな水稲直播栽培等の導入は困難である。
- 海部東部地域(右図)では、こうした動きは特に遅れており、早急な対応が求められていた。



図 当事務所管轄地域(黒線内)と海部東部地域(着色部分)の位置

## 2. 目標

効率の良い農地の利用調整を進めるため新たな団地的取組を進める

○到達目標 : **新たな団地的取組 5事例**

## 3. 活動の内容

○普及対象

海部東農協営農受託部会員

津島市神守地区 集落営農組織3

あま市美和地区 集落営農組織7

### 1 津島市白浜町(平成23~25年度)

水田営農モデル策定検討支援

団地的取組の啓発推進

集落営農組織の経営改善支援

飼料用稲、WCS用稲導入技術の確立支援

飼料用米品種「モミロマン」の施肥改善

### 2 あま市美和地区(平成24~25年度)

緑肥作物を導入した水田営農モデルの合意  
こだわり栽培米の生産推進

### 3 あま市乙之子(平成23年度)

水稲直播栽培の新規導入支援

### 4 津島市宇治町(平成26年度)

担い手への農地集積

## 4. 成果

集落営農組織が設立 構成員52戸、25ha

集落農地の経理一元化を目的とした営農集団組合

営農組合が作業を受託

営農組合で飼料用米品種の実証

集落営農経営改善のため、疎植栽培の導入 **【1事例】**

飼料用米「モミロマン」を2集落で約7.5ha作付 **【1事例】**

レンゲを導入した水稲生産が開始された**【1事例】**

不耕起V溝直播栽培の団地が設置された **【1事例】**

農地中間管理事業を活用して、集落内農家87%の農地  
17.8haが担い手に集積された **【1事例】**

## 5. 今後の課題

農地の利用集積について、農地中間管理事業や人・農地プランへの支援活動により推進していく。